

## われら同期の桜

2025年2月14日、東京・新宿の一隅にある居酒屋に、40代を迎えた10人の同級生が集った。高校を卒業して以来、それぞれの道を歩み始めてから、早や25年の歳月が流れている。四半世紀という時の重みは、当時の記憶をぼんやりと遠ざけるに



### 小松高校 52 回生 (2000 年 3 月 卒業)

(右側手前から) 2 番目・佐々木純一、4 番目・内倉要、  
5 番目・松本洸徳  
(左側手前から) 2 番目・遠藤玲奈、4 番目・島拓郎、  
奥の 5 番目・竹田明弘

= 2025 年 2 月 14 日、東京・新宿の居酒屋

は十分で、誰とどんな関係だったとか、どんなエピソードがあったかなんて曖昧だ。ただ、「あの時間、あの場所で、同じ体験をしていたはずだ」という心許ない仮説を支えに、互いの言葉を手繰り寄せるように会話が進んだ。

今回集まった面々は、いずれも紆余曲折を経て首都圏に暮らしている者たちである。今でこそ北陸新幹線

が開通し、小松から東京まで直通で行けるが、当時は、地元にとどまる者や関西方面へ向かう者が多く、東京を目指すのは、少しばかり冒険に近い選択だったように思う。

メンバー紹介は、個人情報に関係で6人とどめる。トップバッターは右側手前から2番目、佐々木純一から。彼は5才からヴァイオリンを始め東京音楽大(器楽科ヴァイオリン専攻)卒、同大学院科目等履修を首席修了。交響楽団などでの演奏活動のほか、矢沢永吉、サザンオールスターズ、星野源などのアーティストのサポートや、テレビドラマ、CMのレコーディングにかかわる。自ら(株)MICを設立し、音楽事業を展開中。内倉要は、東京農工大・同大学院を経て小松製作所(現・コマツ)に就職、その後デロイトトーマツコンサルティングに転職し、現在は国内の半導体ビジネスを支援している。最近では会社のボランティア活動で月に1回ほど被災地の輪島にお邪魔している。小松高52回生が関東同窓会の次期総会の幹事役になっており、役員の一員としてこの飲み会の席でこの文章を書くことになった。松本洸徳は横浜国立大卒業後、地元で就職。現在はSOMP Oひまわり

り生命保険にて東京法人支社長として都内の企業団体を担当している。

竹田明弘は、立命館大を卒業。専門商社を経てエアコンメーカーに就職。技術営業に従事。島拓郎は早稲田大を卒業後、IT企業に就職。金融系システム開発の企業に勤める。

遠藤玲奈(旧姓 酒井)は女子大を卒業後、大和証券(株)に就職。その後M&Aコンサルティング会社の社長秘書を経て、(現)西村あさひ法律事務所・外国法共同事業の弁護士秘書として勤務。今年度より叔母が所属する関東大小松会や目黒石川県人会にて、石川県の魅力を広く発信し、ふるさとの発展に貢献したいと張り切っている。

小松という土地柄か、われらの世代に共通する性格なのかは分からないが、皆ドライで、ある種の自由人。今回の集まりもたまたま声がかかったから来たと言う程度。当時の顔を思い出そうと久しぶりに卒業アルバムを開いてみたけど、半分くらいは誰だか思い出せなかった。たまには卒業アルバムを開いてみて、それから同窓会や飲み会の誘いがあつたら、ちよつと勇気を出して参加してみるのもいいかもしれない。

(文中敬称略、文・内倉要)

## 和敬塾塾友会北陸支部 金沢で新春の集い、18名参加

和敬塾・塾友会北陸支部の新春の集いが2月15日、金沢市駅西新町の業香楼新館で開かれ、18名が参加した。

石坂修一支部長(前石川県議、県日中友好協会会長、昭50年西寮卒)が「本日、塾友会本部の台湾支部が開設される日です」と歓迎の挨拶、西田良春氏(昭45年南寮卒)が乾杯を発声し宴席に



## 羽咋高校20回生

(右から) 中村洋行、高見等、有川雪子、赤池清  
(枠内) 右から南雄二、大橋茂

=東京・KITTE丸ノ内、2025年2月8日

## われら同期の桜

入った。

辰巳平一氏(昭47年西寮卒)や県トラック協会副会長(北陸貨物運輸会長)の山田秀一氏(昭51年北寮卒)が大の里の応援をしている話で盛り上げ近況を報告。JA石川県中央会代表理事の西沢耕一氏(昭51年南寮卒)が日

本の農業の現状について、前支部長の森本栄史氏(昭52年南寮卒)が、小松市公平委員会委員長など7つの役に汗をかいていると語った。

今回一番の若手の参加は、竹松投資アドバイザー(株)の竹松祐貴氏(平成26年西寮卒)でした。

昭和43(1968)年に羽咋高校を卒業した20回生、団塊最後の世代で同期生44人。1月26日の石川県人会総会で同期の中村洋行が専務理事に就任、震災後の今、十分に力を発揮して貰おうと東京駅前KITTEビルに集合した。

中村洋行は北海道大学工学博士、1建築士で東急建設技研室長、建造物耐震診断のコンステック社長を経て今度は郷土のために奮闘する構え。宝達志水町出身。

高見等は大学卒業後、不動産会社に勤務、昭和50年に羽高同ジクラス仲間の赤池清、中橋外志満と3人で(株)羽興を設立し、現在建築・不動産羽興建設(株)代表。高校時代は野球部マネージャー。趣味は読書。羽咋市出身。

有川雪子(旧姓野崎)は、高校時代に書道部在籍。社会人になり横浜市民マラソン壮年の部、3位になり、キャリアを生かし陸連の審判員

を務めた。現在は永年責任者として関わってきた放課後児童育成業務を退き、学んだことを通しこれからも努力する。関東羽咋会副会長、県観光特使。羽咋市出身。

南雄二は早稲田大卒業後、日本ヒューレット・パッドカード入社、光マインクロウエーブ半導体営業部、国際調達部に勤務。退職後は地域の自治会長、防災、防犯、子供、高齢者・IT支援を任せられる存在。羽咋高校関東副会長、県観光特使。志賀町出身。

大橋茂は神戸大学卒業後、丸紅に入社、札幌勤務の後、20代後半からロッキード事件で撤退した航空機部門の再建に携わり、ニューヨーク駐在を経て宇宙航空機部長、丸紅エアロスペース社長、会長。退職後はゴルフ、全国の城巡り。志賀町出身、千葉県船橋市在住。

赤池清は高校時代に理数科に入った。部活はハンドボールで女子はインターハイ常連だが男子はたまにしか勝てなかったが沢山の仲間が出来た。田舎にバイクSSTRなどに貢献したい。趣味は麻雀、将棋。宝達志水関東ふるさと会副会長、いしかわ観光特使。

(文中敬称略、文責・赤池清)

## 石川県人会の新専務理事に 中村洋行氏（宝達志水町出身）

石川県人会は12月9日、都内の都道府県会館で開いた第4回理事会で新田義孝専務理事が退任し、後任に1級建築士の中村洋行理事（74）＝宝達志水町出身＝を選任することを内定した。また、新田氏が兼務していた総務委員長には山上徹氏（同志社女子大名誉教授、ふるさと関東羽咋会会長）が就く。1月26日に開く総会・新年祝賀会で正式に決まる。

中村氏は羽咋高、日大理工学部建築学科修士、北海道大工学部理工学研究博士課程修了。東急建設技術研究所室長、コンステック代表取締役などを経て現在、UR総研顧問。

### 立教、同志社大卒業生組織が連携 金沢で集い、約100人参加

立教大の卒業生がつくる石川立教会と同じく同志社大の同志社校友会石川県支部が12月19日、金沢市のホテル日航金沢で「締結の集い」を開き、両大卒業生約100人が連携して交流すること



### 輪島高校51期生

（左から）中谷健、小西秀晴、青地美帆、荒川信行  
＝2024年11月23日、東京都文京区・東京ガーデンパレス

を申し合わせた。

両大学はキリスト教主義の教育を掲げていることで共通しており、立教大は24年に、同志社大は25年に創立150周年を迎える。昨年5月に両大学が連携協定を結んだことから石川の卒業生組

## われら同期の桜

4人は輪島高校を1999（平成11）年3月に卒業した51期生。3年時に能登空港が輪島市三井町で着工しており、ふる里の発展を期して進学や就職した者が多い。1980年度生まれのいわゆる「松坂世代」で、40代半ばの働き盛り。51期生161いるが、今回、東京輪島会の総会・懇親会に出席した4人が顔を揃えた。

3人が輪島市河井町、中谷健1人だけ町野町に実家があり、いずれも実家が被災した中、支援、応援しようと誓い合った。

荒川信行は、慶大理工学部同大学院を修了後、世界最大級のコンサルティング会社「アクセンチュア」を経て、東大発のベンチャー企業であるセレイドセラピューティクス（株）を創業。「造血幹細胞」を使った新しい細胞治療の開発を進める。

織も対応した。

石川立教会の砂塚隆広会長、同志社校友会県支部の横川浩信支部長が挨拶、立教大OBの小田禎彦氏が乾杯発声、同志社大OBの中山賢一氏が中締めた。

小西秀晴は輪島高で野球部に所属、進学先の東海大（工学部）で野球部マネージャーだったスポーツ好き。都内中心に酒販200店を展開、通販・配達もする「カクヤス」の浅草店に勤務、持ち前のバイタリティーを発揮している。

中谷健は成城大法学部を卒業後、大手信託銀行に入行。現在は某大手メガバンクに勤務。都内店舗や名古屋勤務を経て、現在は大阪本部所属にて、単身赴任をしながら富裕層や中小企業オーナーを対象に事業承継、資産承継に関するコンサルティング業務に従事し活躍している。

青地美帆は石川県庁に勤務後、家族の転勤を機に上京。現在、東京輪島会の坂本哲会長が経営する四季建築設計事務所勤務。2020年から東京輪島会の事務局長を務め、能登震災の義援金集めなどの世話役に奮闘中です。

（文中敬称略、文責・青地美帆）